

## 平成30年度第1回市川市教育振興審議会 会議録

- 1 開催日時 平成30年5月14日（月）13時30分から17時00分
- 2 場 所 市川市南八幡1丁目17番15号  
市川市南八幡仮設庁舎2階 教育委員会会議室
- 3 出席者（敬称略）
  - (1) 会 長 天笠 茂
  - (2) 副会長 黒木 政継
  - (3) 委 員 広瀬 由紀  
池谷 佳子  
晒科 里美  
松本 浩和  
角谷 好枝
  - (4) 事務局 田中 庸恵（教育長）  
松下 大海（教育次長）  
佐野 滋人（生涯学習部長）  
松尾 順子（生涯学習部次長）  
井上 栄（学校教育部長）  
根本 泰雄（生涯学習部教育総務課長）  
山村 雅彦（同課主幹）  
西村 直（同課副主幹）  
須志原 みゆき（同課副主幹）  
加澤 俊（同課主任）
- 4 議 題 平成29年度の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について
- 5 提出資料
  - (1) 諮問書
  - (2) 諮問資料「教育委員会点検・評価報告書（案）」
  - (3) 市川市教育振興審議会平成30年度名簿

【13時30分 開会】

○ 根本教育総務課長

それでは、ただ今から平成30年度第1回市川市教育振興審議会を開催させていただきます。本日の会議は、審議会委員10名のうち3名欠席ではございますが、市川市教育振興審議会条例第6条第2項の規定により、成立いたします。本日の議題につきましては、法令等で非公開とはされておらず、また、個人情報などの非公開情報も含まれておりませんことから、「市川市審議会等の会議の公開に関する指針」第6条に規定する非公開事由はございません。本日の会議について公開することとしてよろしいか、お諮りいたします。いかがでしょうか。

○ 委員全員

【異議なし】

○ 根本教育総務課長

ご異議なしと認めます。それでは、本日の会議を公開することと決しました。傍聴者の入場を認めます。傍聴者はいますか。おりませんね。本日は、「次第の2 諮問」まで私が進行を務めさせていただきます。本日の会議終了時間は、17時00分を予定しております。審議の状況によりましては、多少前後することもあるかと思しますので、よろしくお願いいたします。

それでは、次第の1「会長及び副会長の選出」に移ります。会長及び副会長は、市川市教育振興審議会条例第5条第1項の規定により、委員の皆様の互選によってお選びいただくこととなっておりますので、よろしくお願いいたします。それでは、会長よりお選びいただきます。委員の皆様より立候補もしくは推薦がございましたら、よろしくお願いいたします。

○ 角谷委員

天笠委員を推薦いたします。

○ 黒木委員

私も天笠委員を推薦いたします。

○ 根本教育総務課長

天笠委員というお名前があがりましたが、この他には、ございませんでしょうか。無いようでしたら、天笠委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○ 天笠委員以外の委員

【異議なし】

○ 根本教育総務課長

それでは、天笠委員が会長に選出されました。続きまして、副会長をお選びいただきます。委員の皆様より立候補もしくは推薦がございましたら、よろしくお願いいたします。

○ 天笠会長

黒木委員を推薦いたします。

○ 根本教育総務課長

黒木委員というお名前があがりましたが、この他には、ございませんでしょうか。無いようでしたら、黒木委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

- 黒木委員以外の委員

【異議なし】

- 根本教育総務課長  
それでは、黒木委員が副会長に選出されました。会長、副会長が選出されましたので、しばらくお時間をいただいて席の移動をさせていただきます。

【会長、副会長 席の移動】

- 根本教育総務課長  
それでは、会長と副会長からご挨拶をいただきたいと思います。

【天笠会長 挨拶】・【黒木副会長 挨拶】

- 根本教育総務課長  
ありがとうございました。次に、次第の2「諮問」に移ります。田中教育長より諮問書を天笠会長に提出させていただきます。

【諮問書提出】

- 根本教育総務課長  
ありがとうございました。これ以降は、天笠会長に進行をお願いいたします。それでは、天笠会長、よろしくをお願いいたします。

- 天笠会長  
それでは早速、次第により進めさせていただきます。次第3、本議題の調査審議に入らせていただきます。「平成29年度の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について」事務局より説明をお願いします。

- 根本教育総務課長  
平成26年度から平成30年度までを計画期間とする、第2期市川市教育振興基本計画についての「点検及び評価」でございます。概要について確認の意味も含めましてご説明いたします。なお、本日の審議会で教育委員会の「点検及び評価」の自己評価にあたります一次結果について、一通りご審議いただき、事務局で答申案を作成し、来週の審議会では、答申案をご審議いただきたいと思いますと考えております。その答申の内容を踏まえて、報告書の見直しを行い、教育委員会会議での議決後、市議会に報告させていただきます、また、市公式HPでの公開をさせていただくものです。

では、お手元に「諮問資料 教育委員会点検・評価報告書（案）」をご用意いただき、1ページをご覧ください。まず、「点検・評価を行う目的」でございます。資料の「1 目的」をご覧ください。点検・評価等は、「教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。」と規定されております「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条」に基づき実施するものでございます。この規定は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たし、教育の一層の振興を図ることを目的として定められております。また、本日、貴審議会に諮問させていただいた理由でございますが、同法第26条第2項で、「教育委員会は、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする」と規定しております。そこ

で、教育委員会としては、この規定に基づき、教育委員会が委員会内で実施しました点検・評価につきまして、教育に関し学識経験をお持ちの皆様で組織いたします貴審議会に諮問し、委員の皆様のご意見を伺うものでございます。

次に、「点検・評価等の対象」について、でございます。「2 対象」をご覧ください。点検・評価に際しましては、本市が行う教育施策をまとめました「第 2 期市川市教育振興基本計画」に示す 41 の施策について実施いたしました。

続きまして、「点検・評価等の方法」について、でございます。「3 方法」をご覧ください。点検・評価につきましては、第 2 期市川市教育振興基本計画に基づく平成 29 年度の重点事業の結果について点検するとともに、施策の成果に基づき評価を行ったところでございます。「(1) 重点事業の点検」をご覧ください。平成 29 年度の実施事業を事業の実績及び進捗状況について点検しております。なお、特に進捗状況は、A・B・C・D の 4 つの区分で評価しております。なお、区分の内容については四角で囲ったとおりでございます。

次に 2 ページの「(2) 施策の評価」をご覧ください。基本計画に示す 41 の施策につきまして、重点事業及び成果指標の平成 29 年度の現状を基に、施策の進捗状況を評価しております。この際、施策の評価は、「1. 施策の現状・課題」欄に現状及び課題の認識を記載した上、「2. 対応」欄にその認識に対する方針を記載しております。なお、評価の基本的なパターンといたしましては、第 2 期計画における点検評価は 4 回目となり、成果指標の動きも複雑になりますので、重点事業の進捗評価、成果指標の前年度との比較、そして、前回点検評価から積み残した課題や成果指標の特徴といった施策の事情をバランスを見て評価し、施策として、おおむね良好と評価した場合においては、「1. 施策の現状と課題」の欄に、「施策の実現が図られてきている」と記載し、「2. 対応」の欄には、「現在の計画に沿って、施策のさらなる推進を図る。」と記載しております。逆に、良好ではないと評価した場合においては、「1. 施策の現状と課題」の欄に、「施策の実現が図られてきていない」と記載し、課題が何であるかを記載いたしました。そして、課題の対応を「2. 対応」欄に記載いたしました。このような基本パターン以外にも、「施策の実現がおおむね図られてきている」とはするものの、今後さらに対応した方がよいと思われる施策には、対応等を記載しております。以上のような形になりますので、施策の度にその都度、ご確認いただければと考えております。

最後に、教育委員会としての点検・評価の一次結果をまとめた経過でございます。

「(3) 経過」をご覧ください。まず、本年 3 月、平成 29 年度の重点事業を所管いたしますそれぞれの担当課において、重点事業の実績及び進捗状況を点検しております。その後、4 月に、教育次長、各部の部長、次長、及び筆頭課長で構成いたします「教育振興基本計画推進会議」におきまして、各所属が実施した点検及び指標の現状値を基に、教育委員会事務局の点検・評価を実施いたしました。その後の 5 月 9 日に、教育委員会事務局の点検・評価を基に、教育委員が点検・評価を実施いたしております。点検・評価等の概要につきましては、以上でございます。

- 天笠会長  
ただいまの説明につきまして、ご質問はございますでしょうか。

- 委員全員

【質疑なし】

- 天笠会長  
他に質問がないようですので、具体的に調査審議を進めてまいります。まず事務局に「諮問資料 教育委員会点検・評価報告書」に沿って施策ごとに点検・評価結果を簡単に説明してもらいまして、その後、それぞれの立場からご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。説明に入る前に、計画の全体像、

3つの基本的な方向について、41の施策の構成がわかるよう、ご説明をお願いします。

○ 根本教育総務課長

お手元の市川市教育振興基本計画の4ページ、5ページをご覧ください。

○ 天笠会長

時々、このページに戻りながら全体像をイメージしていただければと思います。「こどもの姿」「家庭・学校・地域の姿」「市川の教育の姿」と3つの姿があり、そこから細かく各施策が分かれています。では、ご説明をお願いいたします。

○ 根本教育総務課長

#### 【資料に基づき説明】

○ 天笠会長

ただいま説明をいただいた報告書をご覧いただきながら、委員の皆様にはご意見をいただきたいのですが、概ね評価が妥当であると了解するのか、また、了解するとしても確認をしたうえで、ということもあろうかと思えます。忌憚のないご意見をお願いできればと思います。また、評価とは別に課題が考えられる場合、施策を進めていくうえで力を入れる点、留意する点、その他様々な視点から、ご意見があればお願いしたいと思います。

ご意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。成果指標については、そもそも指標が妥当であるかどうか、ということも1つかと思えますし、様々なご意見をいただければと思います。例えば、成果指標3については、77%となっており、他の指標2つが88%、93%となっているなかで、施策の実現が図られてきていると言っているのか、というご意見もよろしいかと思えます。その他、お気づきの点、ご意見、何でもいただければと思います。

○ 広瀬委員

指標3「自分の考えや思いを伝えることができる」と回答する児童生徒の割合について、現場を見ていらっしゃる先生方に、現状等をお教えいただけますでしょうか。

○ 天笠会長

今のご意見に対して、事務局の立場から、また現場にいらっしゃる中学校、幼稚園のお立場の委員さんもいらっしゃいます。今のご意見に対して、幼稚園の立場から何かございますでしょうか。

○ 池谷委員

幼稚園では、自分の考えを伝えるということ、幼・小・中のブロックでもテーマにしておりました。話し合いが成立するか、というなかで、4歳児のときは自分の思いを出す、5歳児のときは話し合いを生活に取り入れるということをしております。その中でも、折り合いをつけることを大切にしています。自分の思いを伝えるだけでなく、相手の思いも聞く、という葛藤活動を大事にしております。園児は個人差も大きいため、先生が間に入り、サポートをしております。保護者アンケートにおいても、話し合い活動ができ、思いを伝える教育ができていると、高い評価をいただきました。

○ 天笠会長

今のご意見ですと、施策の実現が図られてきている、とする事務局案は概ね了とする、ということではよろしいでしょうか。

○ 池谷委員  
妥当だと思います。

○ 天笠会長  
中学校ではどうでしょう。

○ 黒木副会長  
小・中学校を見ますと、小学校では表現活動が授業の中で取り入れられており、自分の思いを伝えるということは平均的に進められていると思います。中学校の場合は、平均化されているかと言えば、そうでもないかと思います。新学習指導要領の方向性を考えたときに、授業のスタイルをそういう方向に進めていこうというのがあると思います。それを進めていけば、良いのではないかと思います。現時点においては、概ね良好ではないかと思います。

○ 天笠会長  
事務局案に了ということによろしいでしょうか。

○ 委員全員

【異議なし】

○ 天笠会長  
指標の設定については、達成が100%不可能なものを目標値100%とすること自体がどうなのか、ということもございますし、仮に90%を目標として、それを達成したとしても、残りの10%が実は重要で、その10%に現場の先生方が悩んでいる、ということも現実にあるかと思えます。残りの10%をどうするか、施策の次の展開にどのように上手く繋げていくのか、ということが実は課題なのではないでしょうか。90%と設定し、達成したからよしとするのか、残りの10%に目配せをして、まだまだ評価を厳しくしてくのか、私は、後者の方が問われる時代になったのではないかと思います。

全体を通しての課題を考えますと、多様化が課題であると思えます。全体の8割9割を了としても、1割2割のなかに色々な苦労があり、おそらく個別に対応していかないといけない、というのが課題なのではないかと思えます。それをどのように点検評価等の指標で拾っていくのか、も課題と思えます。このような課題・テーマについて私たちは求められたことについて意見を申し上げていく、というスタンスでいきたいと思えます。引き続き、色々な施策がでてきますので、折々課題を指摘していただければと思えます。

続きまして、1-1-2をお願いします。

○ 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

○ 天笠会長  
1-1-2についての、成果指標とそれに対応する現状・課題の自己評価、対応策をご覧になり、お気づきの点がありましたらお願いいたします。

1つは、成果指標自体が命を大切にするという施策のテーマに迫り切れていないのではないか、という意見もあると思えますが、いかがでしょうか。子どもたちにどのように命の大切さを伝えていくのかというなかで、この2つの指標でよろしいのか、と思うのですが、いかがでしょうか。

○ 黒木副会長

成果指標 1 については、小学校と中学校で結果に差があるなかで、平均化して目標値を定めることはいかがなものかと感じました。また、指標についても、もう少し施策に近い指標を設定することも出来るのではないかと感じております。

○ 天笠会長

今の私どもの意見は、対応の、現在の計画に沿って施策のさらなる推進を図る、という点で、成果指標の在り方をもう一度見つめ直していただく、より施策に迫る指標を検討できないか、という言い方もできるのではないのでしょうか。例えば、参考の欄に記載している道徳教育推進事業などの事業の方が、施策に直接的に繋がっているように感じますし、これらを指標にすることができるのかご検討いただければと思います。

もう1つは、成果指標 1 の目標である 75%が低くないのか、ということもあるかと思えます。現状・課題、対応についての事務局案はいかがでしょう。

○ 委員全員

【異議なし】

○ 天笠会長

了解いたします。個人的には、評価が甘いのではないかと感じます。このような施策については、厳しく見つめた方がよろしいのではないかと思います。今日の子どもを取り巻く状況を考えると、かなり厳しめに自らを捉えた方がよろしいのではないかと、意見として申し上げさせていただきます。

それでは、1-1-3 道徳教育の充実についてお願いいたします。

○ 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

○ 天笠会長

成果指標 1 についてですが、指標が高く出ておりますが、何か具体的な例はありますでしょうか。いかがでしょうか。

○ 黒木副会長

教育委員会で地域の方々を学校へお呼びし、いじめ等について話してもらい、ということで人材活用をしております。

○ 天笠会長

そちらについては、保護者が見ることもあると思いますが、地域の方に公開はしているのでしょうか。

○ 黒木副会長

学校によってはホームページ等で公開しているところもございます。

○ 天笠会長

成果指標の数値は何かのデータがあるのでしょうか。地域の方の参加をどのようにデータとして捉えているのでしょうか。

○ 根本教育総務課長

千葉県の子どもの道徳教育の推進状況に関する調査から数値を算出しております。

○ 天笠会長

地域の方が授業をご覧になる機会はとても大切だと思います。良い施策だと思います。そういうところをより浮かび上がらせることもよろしいのかと思います。他にご意見はございますでしょうか。

○ 松本委員

13 ページに記載されている学校支援実践講座事業ですが、昨年、一昨年と参加させていただきました。各年度、座学のほか、5 校ほど学校に伺い、5, 6 年生とグループワークのような形で話をする機会がありました。なかなか子どもたちと直接話す機会はないので、良い取り組みだと思い参加させていただいております。ただ、地域の方の参加がまだ足りていなく、もったいないなど、人材活用という点では、もっと可能性があるのではと感じているところです。

○ 天笠会長

もちろん学校の安全が前提ですが、地域の方に授業を見ていただこうと、学校は努力しておりますので、市川市内の学校は市民の方に理解されていると、より拡がり充実を持った形になっていくというのも、1つの施策としてあっていいのではないかと思います。それでは、事務局案について了としてよろしいでしょうか。

○ 委員全員

【異議なし】

○ 天笠会長

それでは 1-1-4 体験活動の充実について、お願いいたします。

○ 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

○ 天笠会長

こちらについてはいかがでしょうか。

○ 角谷委員

私はコミュニティークラブを 20 年続けております。子どもにどのように体験させるか、ニーズと合わない、マンネリ化などが課題としてあります。ただ、参加者は満足しています。現在は指導者が不足するほど将棋がブームとなっています。どこのクラブも活発に活動しているようですが、コミュニティークラブのお知らせをしても周知が行き届いていない、という課題もあります。

○ 天笠会長

指導者が不足するということですが、どのように対応しているのでしょうか。

○ 角谷委員

教えるという点では、将棋やお花、お茶の先生等、指導者をお願いしていますが、皆で楽しむという点では、地域のボランティアの方にご協力をお願いしております。

○ 天笠会長

ということは、事務局案は概ね了ということではよろしいでしょうか。

○ 角谷委員

そうですね。妥当であると思います。

- 天笠会長  
了解ということですね。他の委員の方で何かご意見等ございますでしょうか。

- 委員全員

【異議なし】

- 天笠会長  
了とさせていただきます。次に 1-1-5 をお願いいたします。

- 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

- 天笠会長  
こちらについてはいかがでしょうか。

- 黒木副会長  
市川市では司書の方にとっても活躍していただいでいて、図書室の環境改善や、授業に入ってくる等、他市と比べても、とても進んでいると思います。指標 2 においても、小学校ではとても多くの時間、図書館が使われていると思います。中学校は足りないと思いますので、これからの課題として取り組んでいきたいと思ます。

- 池谷委員  
幼稚園では、絵本の読み聞かせが主なものになるのですが、幼児期の場合、保護者の読み聞かせということで、家庭で指導をしているところが大きいです。家庭が忙しい等の事情があるなかで、幼稚園が各家庭にどのように発信し、どのように協力を仰いでいくか、ということが課題です。子どもたちは絵本が好きで、読み聞かせも好きです。

- 天笠会長  
いまのお話で、私が考える課題とつながったと感じました。成果指標は学校との関係で捉えておりますが、今のご指摘は地域や家庭との関係を見たとき、そちらの指標が足りない、というふうに捉えさせていただきました。どこに課題があるのか、事務局の課題意識みたいなものが問われるところではいかと思います。学校との関係で言えば、市川市の環境、資源は全国有数ではないかと、そういう立場からすると、はたして使いこなしているのか、成果指標の設定が低いのではないかと、言うこともできると思います。課題は保護者や地域の方に広げていくのか、どうつなげていくのか、という点が浮かび上がりつつあったというあたりを、どのように捉えていただくか、ということも課題であると思います。

そこで、施策の現状・課題について、施策の実現が図られてきている、というのは少し馴染まないのではないかと思います。対応についての事務局案としては、妥当だと思ます。ですが、文章のパターンがありますので、現状・課題についての記載も事務局案になるのかと思ます。

他に何かございますでしょうか。

- 角谷委員  
読書が好きという児童生徒はいるが、自分で読んで理解するという力は、まだ弱いのではないかと思います。読書とは何か、本が好きとは何かを、どう考えていくかということも課題ではないかと思います。

○ 天笠会長

今、教育関係者の中で話題になっている本の中に、漢字を読めないのではないか、そのような子がいるのではないか、どのように啓発していくのか、というものがあります。読書教育の推進は、市川市にとって重要な施策の1つではないかと思えます。このあたりの捉え方などを注視する必要があると思えます。政策の体系化においても、読書を核にした体系化もあるかと思えます。1-1-5については、了としてよろしいでしょうか。

○ 委員全員

【異議なし】

○ 天笠会長

次に1-2-1をお願いいたします。

○ 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

○ 天笠会長

いかがでしょうか。

○ 角谷委員

校内塾・まなびくらぶ事業において、ニーズの高い学校に追加配当を行う、とありますが、まなびサポーターを実施している学校、していない学校、目的が宿題だけをやるものであったり、塾の宿題であったり、週に1,2回など、学校で様々です。私は全体的に子どもには同じように接してあげたいと思えます。人材バンクの活用とありますが、人材派遣も大変です。だれでも良いわけではありませんが、使えるようになればいいと思えます。なかなか、まなびくらぶも難しいところもありますが、できれば均等にやってもらいたいと思えます。

○ 天笠会長

このあたりのところは、ここ数年、あるいは10年、学校が重点的に行っている施策であると思えます。学力を育てるということに対して、事務局案は施策の実現が図られてきている、としています。これをどうとらえるか。この評価に関して関心が向くのは、国の学力調査等の結果が成果指標を捉えるうえで読み込まれたうえで評価したのか、というところは関心が向くところだと思います。国や県、市等の子どもの学力調査等をふまえた結果の評価である、という風に説明できるかどうか、という点は備えていかなければならないかと思えます。

この指標については、直接子どもの学力が上がった、下がったということは、指標レベルでは読み取れないので、そのあたりをどのように理解すれば良いか、ということ、いかがでしょうか。

○ 根本教育総務課長

成果指標については、指標の動きを注視しております。また、参考に記載している主要事業の内容、教育委員会の取り組みもふまえて、評価をしております。

○ 天笠会長

施策が、確かな学力を育成する取り組みの推進としており、取り組みの方に注目し、その取り組みが功を奏しているのかいないのか、素直に注目するのが良いのではないかと思えます。取り組みの結果を読み取ったうえで、評価していくことが問われると思うのですが、いかがでしょうか。

- 井上学校教育部長  
学力テストの結果については、デリケートな部分もありますが、それぞれの取り組みがどのように成果へつながったかということは、今後、検証の手立てを考えていきたいと思えます。
- 天笠会長  
おそらく、議員から質問がでることも考えられますし、市民の関心も高いと思えます。課題があるところは課題がある、という風に評価してもよろしいのではないのでしょうか。他にこの点についてはいかがでしょうか。
- 広瀬委員  
施策の現状・課題については、事務局案は妥当であると思えます。成果指標については、ある程度達成できているものもあり、今後新たに追加したりすることはあるのかなと思えます。
- 天笠会長  
成果指標の3、生徒指導の機能を生かした授業づくりですが、結果を見ると受け止められているようです。先生方がどの程度受け入れられているのか、世代によって開きがあるのではないかと、昨今は生徒指導の機能を生かした授業とはあまり言われなくなってきている、と感じています。数値と先生方の理解、学校の受け止め方に開きがあるような認識を持っておりますが、現場の立場からいかがでしょうか。
- 黒木副会長  
若い人ができていないか、と言えそのようなことはないと思えます。全体的には研修会等で理解している。結果的に見ても、意識している先生も多くなってきていると思えます。
- 天笠会長  
私もこの成果指標を入れていただいたことは高く評価しておりますが、実態が指標に寄り添っていないのではと思いました。その意味でそれをどう引き上げていくのが課題かと思っていたら、すでにほぼ達成できているということでもあります。  
ということで、施策に取り組みについて多様な展開をなさっていることは了とさせていただきますが、データの提示の仕方等についてはもう一段、ご検討いただければと思えます。  
それでは、施策 1-3-1 についてお願いいたします。

- 根本教育総務課長

**【資料に基づき説明】**

- 天笠会長  
成果指標の2を設定した狙いや政策的な意図について、ご説明いただきたい。
- 根本課長  
市川市はヘルシースクール推進事業がございまして、これを定めた当時は有所見率が20%を超えておりました。目標の15%は下回りますが、20%を切る成果が出ているものでございます。
- 天笠会長  
お気づきの点、ご意見等ありましたら、お願いいたします。子どもたちの肥満度

については、どこかにデータがあるのでしょうか。学校でデータを持っているのでしょうか。もしくは教育委員会で持っているのでしょうか。

○ 井上学校教育部長

学校では、毎年年度当初に身長体重を測定しております。細かく教育委員会への報告はしていませんが、生活習慣病予防検診で課題があると認められる生徒の割合を把握している、という風に捉えていただければと思います。

○ 天笠会長

かつては成人の抱える問題が若年化し、子どもの世界にも来ております。そういった生活環境から子どもたちを守る、という施策があり、できるだけ生活上の課題を抱えた子どもたちを出現させないように、という施策であると思います。

お気づきの点ありましたら、お願いいたします。

○ 松本委員

先日保護者と話したとき、子どもたちのスマートフォン利用時間が非常に長いという話がありました。遅くまで利用していると早寝早起きに影響してくると思います。何かいい利用の時間や指標があるといいなと感じました。

○ 天笠会長

それでは、事務局案は了ということで、次に進めさせていただきます。次は 1-3-2 食育の推進ということで、お願いいたします。

○ 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

○ 天笠会長

主要事業に 3 つ、ヘルシースクール等がございますが、教育課程の中での努力、工夫する施策があるかと思いますが、それを記載してもよいのかと思います。食に係わる指導、取り組みがあるのではと思います。それが事業にならないのか、と思います。おそらく栄養教諭が加わって取り組まれていると思いますが、いかがでしょうか。

○ 井上学校教育部長

仰るとおり、かなり食育の授業というのは日常的に行われております。ただ、教育委員会の事業として形作ってはいないことから、こちらには記載していないというところです。こちらに記載できるような形も考えていきたいと思います。

○ 天笠会長

学校の授業の中に接点があると思います。多くは特別活動に係わる部分かと思いますが、非常に扱いづらいものになっています。ですが、丁寧に拾い上げていくと、学校の授業との関わり、市の取り組みとつながっていくと。それらのことを整理し、結び付けていくこともよろしいのではないのでしょうか。

それでは、体力について、施策 1-3-3 をお願いいたします。

○ 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

○ 天笠会長

体力についてはこのようにデータがありますが、学力についてはなかなか難しい

ところもあるのでしょうか。28 ページの施策の現状・課題のところですね、これまでは一言で評価しておりましたが、こちらは3, 4行に渡り書かれており、著しくバランスが欠くように思うのですが、よろしいのでしょうか。これをよしとするのであれば、他の施策についても、この種の記述をしてもよろしいところもあるかもしれません。他の評価との兼ね合いを考慮しなくてもよいのかどうか、委員の皆様ご意見ございますでしょうか。

○ 黒木副会長

少し気になった点があります。成果指標 2 ですが、小学生と中学生ですごく差があります。中学生は昼休みに遊ばなくても部活動がありますから、体力が付いています。それを見たときに、全国平均、中学校は頑張っているのですが、当然のこととも思うのです。そのため、評価について書かれているのかと思いますが、ここまで書く必要があったのかとは思いますが。

○ 天笠会長

ということで、評価の記述についてはご検討いただければと思います。次をお願いいたします。

○ 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

○ 天笠会長

ここでは、1-4 ということ、環境学習、情報教育、キャリア教育、防災教育と続きます。このたびの学習指導要領の改訂で、いわゆる教科横断ということが大きく打ち出されてきたのですが、これに回答するのが、1-4-1～1-4-4 までの部分になります。こういう点からすると、1-4 が新しい教育課程になってきているので、それとの回答関係ということですが、ここではこれまでのつながりの中で位置づいています。いかがでしょうか。よろしいですか。続きまして、情報教育についてお願いいたします。

○ 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

○ 天笠会長

これは、どうみても成果指標がもうひとつ足りないですよね。どういうことかという、パソコンとかプロジェクターの普及率というのをやはりおさえないといけない。この成果指標の1, 2をとらえるための下部のデータとして必要です。純然とハードウェアの整備状況があって、その関係の中で、やる気が出たとかという指標をとるとい、その対比関係の中でこれをとらえていかないといけない。仮に ICT 関係の整備が、限りなく進まない学校でやる気がありますか、やる気はありませんかって聞かれるのとかたや、ほぼもうかなりあふれんばかりそのようなものが存在している学校でやる気がありますか、ありませんかって聞かれれば、自ずからやる気が出る、そのあたりのことです。市川市全体で見たら、ハードの整備状況がこういう状況だから、だからこういうデータなんだ、という説明になってくる。ですから、どうしてもハードウェアの整備状況についてのデータが欲しいということです。これを3つの成果指標として位置付けるかどうか、それとも1, 2のかかわりの中で位置づけるかは、それは色々な位置づけ方はあると思います。ハードウェアの側面を必要とするのではないのでしょうか。今後、ご承知のとおり、デジタル教科書というものが入ってきます。デジタル教科書だから情報教育かといういろいろな立場はあると思いますが、成果指標自体をどのような成果指標にしていったらいいかとい

うことをこの先、もう一度練り直していくということにせまれるような状況に置かれていると思います。そういう点でいうとこの情報教育というものが一番先端的なところにあると思います。このデータにある子どもたちの気持ちや意欲といったところをとらえるということは、これはこれとして生かしていけると思うので、これをあげていくための、まさにハードの整備のありかたということと併せてとらえていくことの必要性があるということです。その他はいかがでしょうか。

○ 広瀬委員

特別支援学級の分野のものなのですが、通常学級には、約 6.5%の特別な配慮を要する子どもがいるというデータがあります。通常学級内に情報へのアクセスがしにくいお子さんがおそらく市川市内にもいると思うのですが、そういったお子さんに対する ICT の普及とか活用というのはすごく進められていってほしいと思います。そして、その子たちの普及率、そもそもの整備がされているか、学習が保証されているかはこちらの分野としても気になっているところですので、ぜひ入れていただけたらと思います。

○ 天笠会長

どうしても ICT 環境の整備状況についてのデータが欲しいなと思います。それを成果指標にするかどうかは事業の進め方ということがあると思いますので、よろしくご検討をお願いしたいなということです。そういう点でおおむね施策の実現が図られてきたということですが、ハード面の ICT 環境の整備状況について、より目を向けた課題ととらえていただけたらと思います。次に、キャリア教育についてお願いいたします。

○ 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

○ 天笠会長

35 ページの施策の現状・課題についてですが、1 行で終わらせるのではなく、その旨についての記述がされております。それをふまえて、いかがでしょうか。この事務局案のところには、指標は伸び悩んでいるものの、成果が見られた。その理由として、28 年度より増加している、などの説明が記されておりますが、施策の現状や課題は、このような記述の方がよろしいのではないかと思います。ただ、読む方が大変になってしまうということもあると思いますので、バランスの問題のように思います。要するに、何故におおむね図られているのかを、注記をするということも全体を通した基本的な記述にしていく方が、親切ではないかと思います。先程の 1 行の評価というのは味気ない気がしますので、出来るものは記述を充実させていただければと思います。

○ 井上学校教育部長

こちらの評価については、事務局としても議論となった箇所をございまして、指標自体が右肩下がりに落ちているのに、図られているとしてよいのか、議論となったところをございます。ただ、色々な部分を検証した結果、図られてきているとしてよろしいであろうと。ただ、このような指標の結果に対してという部分では、そこに関しては付け加えなくてはいけないなど。たしかにバランスは悪いのですが、これだけのボリュームになってしまったということについて、説明を加えさせていただいたと、ご理解いただければと思います。

○ 天笠委員

先程、学習指導要領が変わったと申し上げましたが、このキャリア教育も、そう

いう点からすると、新しい改訂対応に、という局面を迎えます。次の振興計画のなかでキャリア教育をどのように位置付けするのかは、学習指導要領を横睨みしながら、進めていかななくてはならない、代表的な1つであると思います。次の振興計画のなかで、また議論していければなと思います。では、次の1-4-4 防災教育をお願いいたします。

- 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

- 天笠会長  
いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは1-5-1をお願いいたします。

- 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

- 天笠会長  
指標3の182回や188回と記載されていますが、1回をどのようにカウントしているのでしょうか。出前授業を希望する学校が博物館に依頼し、依頼を受けて博物館が出前授業や説明を開催した回数をカウントするのでしょうか。

- 根本教育総務課長  
はい。その通りです。

- 天笠会長  
市内の学校数で割りますと、1校につきおおむね3回程度となりますが、それが多いのか少ないのかどのように判断されているのでしょうか。

- 根本教育総務課長  
25年度当時で言いますと、124回でしたので、目標値を150回といたしましたが、現在は、それをはるかに超える回数となっておりますので、有効に活用されていると判断しております。

- 天笠会長  
ほかにいかがでしょうか。

- 委員全員

【異議なし】

- 天笠会長  
ありがとうございました。それでは、1-5-2の説明をお願いします。この項目で一度休憩を取らせていただきます。

- 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

- 天笠会長  
この分野に関心を持っている市民からすると注目される場所かと思いますが、何かご意見ありますでしょうか。

- 広瀬委員

データを教えていただきたいのですが、成果指標 1, 2 について、3 段階評価から 5 段階評価に変えたことによりパーセンテージが下がったとのことですが、28 年度までの③と回答したパーセンテージと 29 年度の④, ⑤と回答したパーセンテージはあまり変わらないのでしょうか。どちらも 10%未満かそのあたりであれば変わらないのかなと考えております。

○ 天笠会長

いかがでしょうか。

○ 根本教育総務課長

手元に資料がございませんので、休憩時間の間に担当課へ確認し、可能であれば再開後にお示しいたします。

○ 黒木副会長

私も気になったところでして、こんなに下がったのかと。市川市は英語教育を充実させているのに、下がるのは残念だとみなさんの意見だと思いますので、そのところを明らかにして説明すると理解がいただけるのかと思います。

指標の 3 ですが、市川の子どもたちの英語力は上がっておりまして、3 級以上の力があるということ、これは素晴らしいことではないかと思います。こういうことでもアピールできるのではないかと思います。

○ 天笠会長

それでは、了ということでよろしいでしょうか。

○ 委員全員

【異議なし】

○ 天笠会長

それでは休憩といたします。

【休憩】

○ 天笠会長

それでは再開したいと思います。

○ 根本教育総務課長

先ず、冒頭に、先程ご質問のありました 1-5-2 の数値についてですが、担当者が現場に出向いていることから、後程回答いたしますが、参考としまして、指標 1 については、本市が 77%のところ全国平均では 72.3%、指標 2 については、本市が 64%のところ、全国平均では 1 年生限定ではありますが 60.2%となっております。なお本市も 1 年生に限定しますと、記載されておりますように 70%を超えており、全国平均を上回る結果となっております。

○ 天笠会長

ありがとうございました。それでは、2-1-1 から説明をお願いします。

○ 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

○ 天笠会長

この施策について、ご意見やご質問がございましたらお願いします。

○ 松本委員

参加された方からの回答を見てみると非常に高い満足度を維持していて、素晴らしいことだと思いますが、一方では、参加される方と参加されない方がはっきり分かれているのではないかと思います。参加される方は目的意識も高く、時間等も調整していただいた上で参加されているので自ずと満足度は高いと思います。一方、参加されない方は、参加したくてもなかなか日程が合わないなどの理由もあるのかなと思いますので、この数値だけでは見えてこないところもあるのではないかと思います。

○ 天笠会長

ありがとうございました。今のご指摘のように、保護者や地域との連携を目的とした事業の指標としては、満足度はもちろんのこと、今後は参加度・参画度も位置付けていくことが問われているのではないかと思います。この項目に限らず他の事業にも共通することだと思いますので、ご検討いただいたうえで、「施策の実現が図られてきている。」「施策のさらなる推進を図る。」ということで2-1-1はよろしいでしょうか。

○ 委員全員

【異議なし】

○ 天笠会長

ありがとうございました。それでは、2-1-2の説明をお願いします。

○ 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

○ 天笠会長

この指標で言う1回とは何をもってカウントしているのでしょうか。また、ここに記載されている回数が多い或いは少ないという判断するための基準はないのでしょうか。

○ 井上学校教育部長

家庭教育学級は、学校毎に年4、5回程度実施しており、全小中学校トータルとしては200回程度にはなろうかと思います。そのうち指導員派遣を受けて実施しておりますのは、学校毎に年1回程度で、これが目安になろうかと思います。

○ 天笠会長

他にいかがでしょうか。

○ 委員全員

【異議なし】

○ 天笠会長

ありがとうございました。それでは、2-2-1の説明をお願いします。

○ 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

- 天笠会長  
この項目に限らないのですが、例えば指標 1 では 29 年度が 73%で 30 年度の目標が 80%となっておりますが、30 年度目標値まで引き上げるための方策や手立ての記載はないのでしょうか。
- 井上学校教育部長  
ここには記載しておりませんが、教職員のニーズに応えるための希望研修や新たな課題に応じた研修会を取り入れるなど毎年見直しを図っております。
- 天笠会長  
この項目に限らず、2、対応の欄の記載として、「施策のさらなる推進を図る。」と言う中に、例えば、このような施策を実施する、或いは考えていく、従来の施策を継承する・充実させる等を加えることを検討していただければと思います。また、指標 2 の「授業の内容がわかる」と回答する児童生徒の割合ですが、全体としてはこのような数値になろうかと思いますが、小学校・中学校、低・中・高学年など細分化したデータを学校に提示することにより、学校の努力目標にもなろうかと思いますが、ご検討をお願いします。
- 天笠会長  
よろしいでしょうか。
- 委員全員  

【異議なし】
- 天笠会長  
続いて、2-2-2 の説明をお願いします。
- 根本教育総務課長  

【資料に基づき説明】
- 天笠会長  
幼小中支援学校連携や幼稚園・保育園・小学校の交流ということですので、現場関係者としてのご意見はございませんか。
- 池谷委員  
教育要領の改訂に伴い、幼稚園・保育園が同じ方向を向いて小学校に繋げるといふ目的をもって連携を進めているところです。
- 天笠会長  
スタートカリキュラムに着手するということですか。
- 池谷委員  
すでに実施しております。
- 天笠会長  
現在進行形と言うことであれば、指標 2 の分析に「スタートカリキュラムの作成と実施をすることが重要である。」という記載は、スタートカリキュラムの充実を図るということになるのではないかと思います。ほかにご意見はございませんか。
- 黒木副会長

指標 2 の年間を通して継続して実施した数が、28 年度は 1 回、29 年度は 6 回となっていますが、30 年度の目標回数が 18 回となっています。この目標は高すぎるのではないかと思います。

- 天笠会長  
18 回を例えば 15 回にするなど協議していただいて対応するということがいかがでしょうか。

- 委員全員

【異議なし】

- 天笠会長  
それでは、2-2-3 の説明をお願いします。

- 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

- 天笠会長  
この項目については、進捗状況を評価する必要はないのですか。

- 根本教育総務課長  
重点事業については、進捗状況を評価しておりますが、ご意見がありましたら検討したいと思います。

- 天笠会長  
市川市は、学校評価に関して、A 以上の評価にも資する県内で最も進んでいる自治体だと思っておりますので、実施率よりもむしろ形骸化しないかが今後の課題だと思います。そのため、1、施策の現状・課題欄の記載はこれまでと同じように「施策の実現が図られている。」となっていますが、違う記述もありえるのではないかと思います。また、学校評価を公表していることを保護者や地域が知らないこともあるかと思えます。また、公表内容を受けて、保護者の満足度等も指標項目に含めるなど、双方向でのキャッチボールが重要になってくると思えます。こういうことが、後程でてくるコミュニティ・スクールにもつながってくると思えます。ほかにご意見はございませんか。

- 委員全員

【異議なし】

- 天笠会長  
それでは、2-2-4 の説明をお願いします。

- 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

- 天笠会長  
今、社会的関心が高いのがこの項目だと思いますので、「施策の実現がおおむね図られてきている。」という評価では、甘すぎると思われるのではないのでしょうか。そのために「業務に専念できるよう支援する必要がある。」との一文が添えられておりますが、いかがでしょうか。

- 角谷委員  
コーディネーターや地域からしてみれば、教職員が多忙であることは理解しており、なんとか先生が子供たちと向き合う時間が取れるよう協力してきたので、この指標結果については少し寂しさを感じてしまいますが、今は、部活動をはじめ子どもたちと向き合う時間をできるだけ多くとれるようにするためには、教職員の方々が何をしてもらいたいのか、どのようなお手伝いができるのかを投げかけているところです。スクールサポートスタッフにもメンバーに参加させていただいておりましたが、ノー残業デーやノー部活タイムの導入で教職員の方々にどれぐらいの余裕が出てきているのか疑問です。
- 天笠委員長  
現場サイドとしてのご意見はいかがでしょうか。
- 黒木副会長  
第一中学校では、ノー部活タイムをこれまでも導入しており、今年からノー残業デーも徹底することにしましたが、どうしても終わらない場合は別の日にその分の残業をするようなこともあるのが現状です。しかし、校長会でも話しておりますが、残業しようと思えばいくらでも残ることはできますが、仕事の方法を自分たちで変えていく努力が必要であり、その意識改革を進めているところです。
- 天笠委員長  
幼稚園ではいかがでしょうか。
- 池谷委員  
教材準備などすべて職員が行っており、スクールサポートスタッフもいない現状では忙しいと言わざるをえません。優先順位をつけて業務に取り組んでおり、また若い職員が増えているので体調面をはじめ、働きやすい環境づくりを心掛けています。
- 天笠委員長  
そのような幼稚園の現状で、子どもとじっくり向き合うことができていると回答する教職員の割合として29年度の72%や30年度目標の75%は妥当ですか。もうちょっと上げる必要はありませんか。
- 池谷委員  
保育中は、全力で子ども達と向き合っているため、子ども達の理解に努めているという割合は高いと思いますが、それをどのように咀嚼し、自分の課題として今後につなげていくのかを考える余裕が少ないのが現状です。
- 天笠委員長  
ありがとうございました。学校として29年度の72%や30年度目標の75%は妥当ですか。
- 黒木副会長  
授業をはじめ休み時間なども含めて子ども達と関わってはおりますので、数値としては妥当ではないかと思えます。
- 天笠委員長  
この数値をもう一段引き上げるのかどうかというのは、引き続き次期振興計画の大きなテーマになろうかと思えます。そういう観点からも他にご意見はございませんか。

んでしょうか。

- 広瀬委員  
学校や幼稚園には、正規・非正規の先生がいらっしゃると思いますが、この数値は、正規・非正規を合わせたパーセンテージになりますか。
- 根本教育総務課長  
少人数指導やライフカウンセラーなどの相談員をはじめ、学校司書、図書館員、スクールサポートスタッフなど非常勤も含めた数値となっております。
- 広瀬委員  
子どもと向きあうということであれば、正規・非正規は関係なく、先生として接しておられると思いますので、正規・非正規で数値に差があった場合には、どのようにその数値を読み取ればいいのかと思い質問させていただきました。
- 天笠会長  
ほかにご意見はございませんか。
- 委員全員  
【異議なし】
- 天笠会長  
それでは、2-2-5の説明をお願いします。
- 根本教育総務課長  
【資料に基づき説明】
- 天笠会長  
保護者からの回答を指標とするのも方法の一つかもしれませんが、教育課程を編成するのは学校なので、学校の立場から、教職員の意見を吸い上げ、それについて保護者の意見を求めるのが学校関係者評価であるとすれば、これも併せて指標としてもいいのではないかと思います。ほかにご意見はございませんか。
- 委員全員  
【異議なし】
- 天笠会長  
それでは、2-3-1の説明をお願いします。
- 根本教育総務課長  
【資料に基づき説明】
- 天笠会長  
ご意見ありませんでしょうか。
- 角谷委員  
コミュニティ・スクールに移行するにあたり、コミュニティサポート委員会を通じてメンバー間の交流が図れたこと、またそのメンバーが今までの活動をそのまま継承できたことは大きな成果だったと思います。

○ 天笠会長  
現場サイドからご意見はございませんか。

○ 黒木副委員長  
一中ブロックは移行中のため、今のところお話ができません。

○ 天笠会長  
この施策は、市川市の将来の方向性を決める施策の一つと思います。その推進役としてコミュニティサポート事業が位置付けられると思いますので、1、施策の現状・課題欄の「施策の実現がおおむね図られてきている。」と記載も、「着実に次に向けてのステップを踏んでいる。」などの記載でもいいのではないかと思いますし、2、対応についても、「施策のさらなる推進を図る。」と言う記載に、コミュニティ・スクールを全市的に導入するという文言を加えてもいいのではと思いますので、ぜひ検討していただきたいと思います。ほかにご意見はございませんか。

○ 委員全員  
【異議なし】

○ 天笠会長  
それでは、2-4-1の説明をお願いします。

○ 根本教育総務課長  
【資料に基づき説明】

○ 天笠会長  
学校支援コーディネーターとコミュニティ・スクールの推進とがうまく融合されていくことが今後の課題だと思います。ややもすれば、それぞれがそれぞれとして進んでいくおそれがあるので、さらなる施策の推進の方法として、学校支援コーディネーターがうまくコミュニティ・スクールを推進できるような方法を検討する必要があると思います。ほかにご意見はございませんか。

○ 委員全員  
【異議なし】

○ 天笠会長  
それでは、2-4-2の説明をお願いします。

○ 根本教育総務課長  
【資料に基づき説明】

○ 天笠会長  
これについて何かございますか。

○ 角谷委員  
指標 2 の学校支援コーディネーターが学校へ派遣したボランティアの人数が増えているのは、学校からの要望があったということだと思います。これは学校が地域を理解し、地域に門戸を開いてきている証左でもあり今後も増えていくと思います。学校からの依頼、コミュニティ・スクールからの提案と言った双方向性をもって進めていきたいと思っています。

- 黒木副会長  
教頭に代わって学校支援コーディネーターに担っていただいている役割は大きいものとなっています。
- 天笠会長  
学校支援コーディネーターとコミュニティ・スクールの両者の関係をどのように捉えられているのでしょうか。コミュニティ・スクールを推進するにあたり、学校支援コーディネーターがどのような推進役を担うのか理解されているのでしょうか。
- 角谷委員  
八中ブロックで言いますと、4校から5人のコーディネーターが学校運営協議会のメンバーとなっておりますが、地域と学校を結ぶのが役割です。しかし、全学校で導入されておらず、進捗状況も異なっておりますので、コーディネーターとしての立ち位置がまだ分かっていない方もいらっしゃるかもしれません。
- 天笠会長  
進捗状況や学校地域の事情も異なる中で、これまでの取り組みを活かしつつ、コミュニティ・スクールを推進するためには、どのようにすべきかを今後知恵を絞っていく必要があるかと思えます。ほかにご意見はございませんか。
- 池谷委員  
今年度から幼稚園も学校運営協議会に参加することになり、それと同時に学校支援コーディネーターも1名選任いたしました。地域の方々の意見をどのように幼稚園に活かしていくか、色々ご教示いただければと考えております。
- 天笠会長  
2-3-1から2-4-2までは整理統合が必要だと思えます。整理統合せずの一つ一つを見ていくと細分化され過ぎて、それぞれが阻害要因になることもあるかもしれないので、政策体系の見直しが必要になってくると思えますし、それが次の基本計画の一つのテーマになるかと思えます。ほかにご意見はございませんか。
- 委員全員  

【異議なし】
- 天笠会長  
次に、「3 市川の教育の姿」になりますが、今までのところと重なるところもあると思えます。それでは、3-1-1をお願いいたします。
- 根本教育総務課長  

【資料に基づき説明】
- 天笠会長  
いかがでしょうか。幼稚園の立場からいかがですか。
- 池谷委員  
昨年、アンケートをとって初めて数値を見たときに、個人差が大きいということを感じました。前期・後期とちゃんとできていると回答してくださった方と、前期も後期もできていないと元気よく丸をする方と、この差は何でしょうと、保護者会やお手紙で、お母さん自身も見直しながら子どもとともにやっていきたいと思いますというスタンスを出していますが、そこが大きな課題です。ひと握り、3点何パーセント

の数値なのですが、そこのお母さんたちの意識をどう変えていくかということが大きな課題です。

- 天笠会長  
現状の 97 とか 98 の数値に、いろんな課題を含んでいるということなのですね。という意見を踏まえまして、これでよろしいでしょうか。

- 委員全員

【異議なし】

- 天笠会長  
それでは次の 3-1-2 子育て支援の充実についてです。改めて幼稚園の立場からいかがですか。

- 池谷委員  
相談窓口については、外国籍の方が多い地域のため、日本語が読めないとか、周知が足りない部分もありました。保護者の支援を考えたときに、いろんな悩みを持っている方で自分からなかなか言えない方もいらっしゃるのので、個人面談など 1 対 1 で会話ができる機会をたくさん増やして、些細な悩み事でも相談できるスタンスをとりましょうということで、教員同士、意識を変えているところです。

- 天笠会長  
グラフを単純にみると、ずいぶん上がり下がりが激しかったり、右肩下がりになっているとか、こういうものを見たときに、おおむね図られてきているという言い方でいいのかどうかという辺りは、幼稚園の立場からいかがですか。

- 池谷委員  
未就園児保育に関しては、3 歳児の親子に幼稚園に通ってきてもらえるよう、子育て支援というかたちで行っていますが、3 年保育の私立幼稚園や保育園を選ぶ方が年々増加している状況が大きくあるかなということが実態です。幼稚園を選ぶお母さんの思いも受けながら、幼稚園が今後どのような役割を果たせばよいのかということが大きな課題です。

- 天笠会長  
子育て支援の充実を図りますということについては、さらなる推進を図りますと、これはそういうことだと思います。現状、経過にあたって、これまでの対応が図られてきているから、さらにそれを、というようなトーンですが、なかなか迫れないからさらに図りますというような、そういう言い回しもあり得るのではないかと思います。このグラフを単純にみると、いろいろな事情に目配せしないとイケないかなと思います。そういうことも含めて、これでよろしいでしょうか。

- 委員全員

【異議なし】

- 天笠会長  
それでは、3-2-1 特別支援教育の推進です。

- 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

- 天笠会長  
いかがでしょうか。
- 晒科委員  
スマイルプランの作成率が上がっています。作成されることももちろん大事ですが、学校間の連携の推進とも関連しますが、それがいかにつながるかという視点がスマイルプランの最も大事な部分です。現在は指標は一つですが、今後のところで、つながったものがいかに波及されていくかといったところにも掘りこんだようなものもあるとありがたいと思います。
- 天笠会長  
この後も特別支援教育はあり、共通していることは、それを捉える成果指標がシンプルに過ぎないかどうかということです。一つ二つの指標で施策を捉えてよいのかどうかという辺りが、課題が課題ですので、テーマとしてあるのかと思います。一つひとつのテーマが個別的であったりとか、多様ということであったりとか、それにどう向き合っていくのかというときに、指標がシンプルだと、見落とししたり、救いきれないようなことが出てくる。世の中の関心は今そういうところに来ているので、それにどう向かい合っていくのかということが問われていると思います。特別支援教育の推進ということについて、この指標が意味がないというわけではなく、これにもう少し加えなければいけないものが指標としてあるのではないのでしょうかということはこれから検討して行ってほしいと思います。
- 広瀬委員  
指標に、例えば、つながりや保護者のご意見、学校間の感触というかその辺りも、今まで出てきた他の事業の中で充実が図られていくと良いかと思いますので、検討していただければと思います。
- 天笠会長  
施策の現状と課題とか対応について、これまで、一文でシンプルに出していますが、ここは丁寧に書き込んでもいいところではないかなと思います。ということを申し添えて、これはこれでよろしいかと思いますがいかがでしょうか。
- 委員全員  

【異議なし】
- 天笠会長  
それでは、3-2-2 子どもや保護者を支援する体制の充実です。
- 根本教育総務課長  

【資料に基づき説明】
- 天笠会長  
ご意見はございますか。
- 広瀬委員  
学校にきてほしいところはあるのですが、不登校の出現率を下げるのが目的なのかというところはどうなのかなと思います。
- 天笠会長  
この辺りのことは、各委員会とか小中のこのお立場の先生が集まっての会議をさ

れていると思います。不登校についての対応、方向性はあるのでしょうか。

○ 黒木副会長

不登校は学習嫌いの子どもだけではありません。家庭的な環境で来れない子もいますし、精神的に病んでしまっている子を無理に来させるわけにはいきませんので、学校がつながっていくということが大切だと思います。私は、2番の、学校は相談しやすい、ということを上げていくことだと思っています。

○ 天笠会長

そういう点では、この目標値を上げる下げるということではないですよ。こういう状況を知るということにこの数値を位置付けたらいいのではないのでしょうかという趣旨のご発言だと思います。不登校対応の場合、無理に登校させないという立場や考え方に国も舵を切っています。とはいうものの、学校の立場からすると、やっぱり子どもたちを来させてほしいとか、それぞれの立場のバランスの中で、ということからすると、体力や学力のように、現状はこういう状況なのだという共通理解してもらおうためのものであり、その点からすると、目標値をどう扱うか、考えていくのかをご検討くださいという趣旨のご発言だったと思います。事務局の立場で検討いただければと思います。ここに書かれている現状とか対応策は一つの記し方だと思いました。よろしいでしょうか。

○ 委員全員

【異議なし】

○ 天笠会長

それでは、続きまして 3-2-3 教育機会均等の確保について、お願いいたします。

○ 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

○ 天笠会長

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

○ 委員全員

【異議なし】

○ 天笠会長

了とさせていただきます。次に 3-3-1 をお願いいたします。

○ 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

○ 天笠会長

98%というのは、100%を目標に設定したけれども、2%は事情があってということなのででしょうか。

○ 井上学校教育部長

学校数からいきますと、1校がそれぞれ十分にやっとは言えないと回答しているということでございます。

○ 天笠会長

このご時世ですし、今、新潟市の状況が関心を集めている状況から言えば、これはやっぱり 100%であってほしいということだと思いますのでよろしくお願いします。その一つの学校は、例えば教育委員会から丁寧なご指導をいただければ改善されることになるのでしょうか。現在の計画に沿って、施策のさらなる推進を図るというよりは、むしろ、学校に丁寧な指導をしていくということでもよろしいのかもしれませんが、これでよろしいでしょうか。

○ 委員全員

【異議なし】

○ 天笠会長

了とさせていただきます。次に 3-3-2 放課後の子どもの居場所づくりの推進をお願いいたします。

○ 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

○ 天笠会長

いかがでしょうか。ずっと 100%で目標値も 100%ということです。さらに 100%をもっと上げるということはあるのでしょうか。

○ 根本教育総務課長

2の対応欄に書かせていただいております。今後の入所希望にも早期に応じられるよう、受け入れ体制の整備に努めるとしております。若干、お待たせしているということもあることについては、早期に対応していきたいということがございます。

○ 天笠会長

よろしいでしょうか。

○ 委員全員

【異議なし】

○ 天笠会長

了とさせていただきます。次に 3-3-3 をお願いいたします。

○ 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

○ 天笠会長

いかがでしょうか。学校の危機管理の整備は、色々な要件が揃わなくてはということですが、セーフティスクールプランに全て包括して危機管理対応が取り込まれているということなのですね。そうすると、セーフティスクールプランについての説明、周知の大切さがあると思います。そうすると、それがどのくらい浸透しているのかとか、保護者や地域の方にも共有していただけるかどうか、そういう視点もあるといいかと思いました。よろしいでしょうか。

○ 委員全員

【異議なし】

○ 天笠会長

了とさせていただきます。次に 3-3-4 いじめ、暴力行為などへの対応の強化をお願いいたします。

- 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

- 天笠会長  
いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

- 委員全員

【異議なし】

- 天笠会長  
了とさせていただきます。次に 3-3-5 をお願いいたします。

- 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

- 天笠会長  
いかがでしょうか。この安全で質の高い教育環境の整備の中に、適正配置とか適正規模とか、義務教育学校の整備ということを入れてしまうことの見解はあったのですか。通常、安全で質の高いというと、成果指標で、耐震とか、校舎の安全とか、そちらの方がつながってくるのではないかと。学校の統廃合等が絡むというのは、あまり安全で質の高いというところは少し位置づけがと思うのですが、皆さんのお立場からすると、ここはこういう整理の仕方によろしいのでしょうか。

- 根本教育総務課長  
平成 29 年度の重点事業として掲載をしておりますが、適正規模・適正配置方針にしても、義務教育学校整備にいたしましても、施設整備が新たに伴うということがありますので、この中に含まれるものと考えます。

- 天笠会長  
参考で、耐震改修とか、トイレ改修とか、まさにこういうことが、健康で安全なということにつながります。ご説明のように、学校の統廃合等はこういうことで加えられているということでご理解いただきたいと思います。よろしいでしょうか。市川市は耐震は 100%済んでいるということですね。

- 委員全員

【異議なし】

- 天笠会長  
了とさせていただきます。次に 3-4-1 をお願いいたします。

- 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

- 天笠会長  
いかがでしょうか。書かれている中身はこういうことだと思います。キャリア教育とこことがつながっているということがあると思います。改めて、それぞれの政策間の関連やつながりをどのように捉えていくのかどうなのかということで、そう

すると、この事業はキャリア教育の事業と関連を持たせることとか、まさに、教科横断的な視点というのも政策間の関連の中で持っていただければと思います。生涯学習はいろいろなものにつながってくると思いますので、そういうところを見つめてもらえればと思います。よろしいでしょうか。

- 委員全員

【異議なし】

- 天笠会長

了とさせていただきます。次に 3-4-2 をお願いいたします。

- 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

- 天笠会長

満足しているといった場合、いろいろな年齢とか、立場の人がいると思います。例えば、どのような数値の捉え方をしているのでしょうか。市民の方がこの程度満足しているというのか、学校関係者の方が満足しているのかということがあると思います。トータルしてということなのではないでしょうか。例えば、そういう点からすると、地域の方の満足度をもっと引き上げていくというようなことが、出てくるのかこないのか、分かりませんが、満足度のデータを丁寧に捉えていただいて、基本的には市民の方の満足度を高めていくことが大切になってくると思いますので、その点からのコメントをお願いできればと思います。よろしいでしょうか。

- 委員全員

【異議なし】

- 天笠会長

了とさせていただきます。次に 3-4-3 をお願いいたします。

- 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

- 天笠会長

これは参加した方の回答ですね。

- 根本教育総務課長

はい。

- 天笠会長

参加しない方は当然、ここからは省かれていることになります。このくらい満足されているので、企画としてはいいんだと。参加されない方をいかにこれに惹きつけていくかの方がむしろ課題なのだと思いますので、そちらの方の成果指標もご検討いただければと思います。よろしいでしょうか。

- 委員全員

【異議なし】

- 天笠会長

了とさせていただきます。次に 3-4-4 をお願いいたします。

- 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

- 天笠会長

いかがでしょうか。現在、中教審では、博物館や公民館と学校とのつながりとか連携とかを新たにどのように確立させていったらよいかということの審議が進行中です。おそらく、次の振興計画のときは、今申し上げたこととのつながりのなかで、公民館とか博物館のあり方を検討していただくことが出てくると思います。そういうことを含めまして、この点についてはこれでよろしいでしょうか。

- 委員全員

【異議なし】

- 天笠会長

了とさせていただきます。次に 3-4-5 をお願いいたします。

- 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

- 天笠会長

これでよろしいでしょうか。

- 委員全員

【異議なし】

- 天笠会長

了とさせていただきます。最後になります。3-5-1 をお願いいたします。

- 根本教育総務課長

【資料に基づき説明】

- 天笠会長

いかがでしょうか。これは評価が甘くありませんか。自分たちで自分たちの自己評価をしてしまうところですから、これをちゃんとやっていますかご自身に問うていただいて。そういう側面もあるかと思えます。いかがでしょうか。教育委員会の機能の充実に向けてということを実面目にまともに受けたら、すごく大きな重いテーマになると思えますし、成果指標も一つだけで処理しきれものではないと思います。ですから、この指標を生かすなら、指標そのものが、3-5-1 になってもいいくらいで、教育委員会の認知度について、教育委員についてどのくらい知っているかということになるのかもしれない。教育委員会の機能がどれほど充実しているかどうかということをご理解いただいたうえで、何かお気づきの点、ご意見があればお願いしたいと思います。それではこれでよろしいでしょうか。

- 委員全員

【異議なし】

- 天笠会長

了とさせていただきます。それでは、いろいろとご意見をいただいたことにお礼を言いたいと思いますし、まだご意見があったらと思いますので、もしありましたら、事務局にお伝えいただいても良いかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。いずれにいたしましても、今日の審議はこれで終わりにさせていただきたいと思っております。

○ 井上学校教育部長

保留になっていました、40 ページ、1-5-2 の指標の③の回答率についてです。1 の③の回答、どちらともいえないは、16%です。2 の③は、25%です。

○ 天笠会長

ありがとうございました。それでは次第に沿って、その他とありますが、何かございますか。それでは、事務局から、連絡をお願いします。

○ 根本教育総務課長

第 2 回市川市教育振興審議会は、5 月 21 日の月曜日、13 時 30 分より、こちらの会議室で開催させていただきますので、よろしくお願い致します。第 2 回審議会では、本日の審議会でご審議いただきました評価について、答申をいただく予定でございます。限られた時間でございますので、答申書の案を事前に送付させていただきますので、委員の皆様にはあらかじめ内容をご確認いただき、修正等がございましたら、事前にご一報いただくと幸いです。当日は、いただいたご意見等を踏まえた答申書案についてご審議いただき、答申内容を決定していただきたいと考えております。第 3 回・第 4 回の開催日時につきましては、次回の審議会でお伝えいたします。事務局からは、以上でございます。

○ 天笠会長

それでは、これもちまして、第 1 回市川市教育振興審議会を終了いたします。どうもありがとうございました。

【 1 7 時 0 0 分 閉会 】